



米科学アカデミーで開かれた式典を終え、ノーベル賞のメダルを手に笑顔を見せる真鍋淑郎さん—船越翔撮影

若者へ「得意な研究を」

真鍋さんノーベル賞メダル

【ワシントン＝船越翔】米国のノーベル賞受賞者表彰式が6日午後、日本時間7日早朝、ワシントンの米科学アカデミーで開かれ、気候変動の数値予測で地球温暖化研究に貢献した物理学賞の真鍋若者にエールを送った。

真鍋さんは、コンピューターを使った気候変動モデルを開発し、二酸化炭素などが増えると、地球全体の気温上昇につながることをいち早く示した。人間活動が温暖化へ与える影響を探る研究の礎となった。

後進に道 気候研究発展

真鍋淑郎さんは60年以上前に渡米し、複雑な現象をコンピューターで計算できる気候モデルを開発した。野の研究が大きく進展し、真鍋さんのノーベル物理学

賞を受賞した。真鍋さんは「人生の大部分をかけて、計算実験を数え切れないほどやってきた。温暖化は人類にとって切実な危機で、今すぐ行動が必要だと強調した。真鍋さんは8日には受賞記念講演をオンラインで行う予定だ。10日にストックホルムで開かれる授賞式には、新型コロナ対策のため、受賞者は出席しない。

もあがるが、後に続いた後輩らの奮闘などでより精密なモデルが実現。気候変動分野の研究が大きく進展し、真鍋さんのノーベル物理学賞受賞につながった。真鍋さんは「本当におめでとうございませうと伝えたい。気象や気候物理学を学ぶ世界の研究者や学生にとって、非常に大きなサポーターになる」。真鍋さんと長年交流がある東京大特任教授の住明正さん(79)（気象学）は、テレビで真鍋さんの姿を見た後、そう語った。

阿部さんは「部下に裏表なく率直に話す真鍋さんの姿に刺激を受けた。真鍋さんの後の時代を作ろうという研究現場の熱気を、今でも覚えている」。後進の奮闘やコンピューターの発展で、ズレの生じない計算が可能になった。

阿部さんは、メダル授与の瞬間を動画で視聴した。「年齢を感じさせないような和やかな雰囲気。お疲れさまでした」と語った。

(C)読売新聞社 無断転載・複製禁止。放送、出版等での二次利用の際は読売新聞知的財産担当 (mail: t-chizai06@yomiuri.com tel:03-6739-6961)まで。